

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成28年10月27日(2016.10.27)

【公開番号】特開2015-206465(P2015-206465A)

【公開日】平成27年11月19日(2015.11.19)

【年通号数】公開・登録公報2015-072

【出願番号】特願2014-85098(P2014-85098)

【国際特許分類】

F 2 5 D 23/00 (2006.01)

【F I】

F 2 5 D 23/00 3 0 2 L

【手続補正書】

【提出日】平成28年9月8日(2016.9.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

貯蔵室と、前記貯蔵室に対して前後に移動自在な容器と、前記容器内のエチレンガスを分解して二酸化炭素を発生させる触媒と、を備えた冷蔵庫において、

前記容器外を流れる冷氣によって冷却されて前記容器内の水分を自身の表面に結露させる結露部と、

前記結露部で結露した結露水を前記容器外へ拡散させる拡散部と、を備えていることを特徴とする、冷蔵庫。

【請求項 2】

前記拡散部は、

前記容器外を流れる冷氣が接触する放出部と、

前記結露部で結露した結露水を受けるとともに、受けた前記結露水を前記放出部に供給する吸収部と、を備えていることを特徴とする、請求項 1 に記載の冷蔵庫。

【請求項 3】

前記放出部と前記吸収部とは、樹脂繊維により構成されており、前記結露水が毛細管現象によって拡散することを特徴とする、請求項 2 に記載の冷蔵庫。

【請求項 4】

前記放出部と前記吸収部とは、一体に構成されていることを特徴とする、請求項 3 に記載の冷蔵庫。

【請求項 5】

前記放出部は前記冷蔵庫の上下方向に延在し、前記吸収部は前記冷蔵庫の正面 - 背面方向に延在することを特徴とする、請求項 2 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の冷蔵庫。

【請求項 6】

前記放出部の背面側にフレームが配置され、前記フレームは複数の通気口を備えていることを特徴とする、請求項 2 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の冷蔵庫。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 0 0 9 】

本発明者らは前記課題を解決するべく鋭意検討した結果、以下の知見を見出した。即ち、本発明は、貯蔵室と、前記貯蔵室に対して前後に移動自在な容器と、前記容器内のエチレンガスを分解して二酸化炭素を発生させる触媒と、を備えた冷蔵庫において、前記容器外を流れる冷気によって冷却されて前記容器内の水分を自身の表面に結露させる結露部と、前記結露部で結露した結露水を前記容器外へ拡散させる拡散部と、を備えていることを特徴とする、冷蔵庫に関する。

## 【 手 続 補 正 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 1 5 】

図 2 は、本実施形態の冷蔵庫 1 0 における野菜室 1 0 0 ( 貯蔵室の一例 ) の上面斜視図である。野菜室 1 0 0 では、冷蔵庫本体 1 ( 図 1 参照 ) の内箱 1 2 4 が野菜室 1 0 0 の壁面 ( 左壁、右壁及び底壁 ) を構成し、野菜室 1 0 0 と冷凍室との間に位置する断熱仕切壁が、野菜室 1 0 0 の上壁を構成している。この野菜室 1 0 0 では、下段容器 1 0 1 及び上段容器 1 0 2 が、前後方向に引出自在に収容されている。野菜室 1 0 0 の背面側には、圧縮機 ( 図示せず ) 等を庫外に配置するための機械室が形成されている。そのため、底壁が正面側よりも背面側で高くなっている。また、下段容器 1 0 1 には、ガラス製の仕切り 1 0 3 が備えられている。これにより、下段容器 1 0 1 が二つの区画 ( 正面側と背面側 ) に分割されている。そして、上段容器 1 0 2 は、下段容器 1 0 1 の二つの区画のうちの背面側の区画を覆うように、配置されている。

## 【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 4 9

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 4 9 】

図 1 4 は、本実施形態の冷蔵庫 1 0 において仕切り 1 0 3 が取り付けられた様子を示す図である。仕切り 1 0 3 は、下段容器 1 0 1 の左右両側面にそれぞれ設けられた、一組の仕切り係止部 1 0 4 の間に挟持されるようにして取り付けられる。即ち、この一組の仕切り係止部 1 1 4 の間に、上方向から仕切り板 1 0 4 が挿入されることで、仕切り板 1 0 4 が下段容器 1 0 1 内に取り付けられる。